

クマに対する 防御姿勢は有効か？

投稿

信州口腔外科インプラントセンター所長 北村 豊

6月30日まで「ツキノワグマ出没注意報」が長野地域に発出されていたのを知っておられたでしょうか？

「ツキノワグマ出没注意報」が発出されているので、気を付けていただきたい。私も、2008年6月ネマガリタケを採取しに行っていた男性が、子連れの母熊による攻撃により、下顎骨折を来した症例で、総合病院で治療を受けたにもかかわらず骨癒合不全により偽関節を来した症例の再治療を依頼されて、下肢脛骨より骨髓海綿骨を採取・移植して、事なきを得た事故症例を経験している。

本年度は4月のツキノワグマ目撃件数が、長野地域で平常年の1.5倍と増加しており、クマの移動が活発である事実から、住民を中心とする人々に改めて注意喚起をすることにより、人身被害を回避する目的で、クマ出没注意報が2025年5月9日(金)より同年6月30日(月)までの2ヶ月間の期間、発出されていた。

そのような経験もあることから、クマの外傷症例の受傷部位や障害の程度には、かねてから関心が高かった私ではあったが、インターネットでクマによる外傷の関連記事や論文を検索中に、興味のある大学医学部を中心としたグループの研究のプレスリリースを見つけた。本日

また、北アルプス地域における6月8日(日)から6月14日(土)までの里地でのツキノワグマの目撃件数が前週の1.5倍以上と増加しており、クマの移動が活発になっていること

は、その研究の概要を簡単に紹介したいと思います。プレスリリースは、本年の6月12日に発表されたもので、秋田大学整形外科講座の医師たちと秋田県のツキノワグマ被害対策支援センターとの共同研究によって得られた成果である。研究の背景には、2023年度に全国で発生したクマによる人身被害は198件(219人、うち死亡6人)で、統計が残っている2006年以降で過去最多を記録したが、中でも東北地方、とくに秋田県では被害が深刻で、県が把握しただけでも70人の被害があり、過去最多となっている。クマと至近距離で遭遇した際には、顔を伏せてうつ伏せになる防御姿勢をとることが勧められている。それは、重症となりやすい顔面、頭頸部、体幹部(とくに腹側)への負傷を避け

ることが重要とされているが、うつ伏せの防御姿勢について解析された報告はこれまでになかった。そこで今回、2023年度に秋田県内で発生したクマ外傷症例を対象に、受傷部位や障害の程度を分析し、うつ伏せの防御姿勢の有効性と病院受診後の経過の追跡調

査」が実施された。調査結果によれば、2023年度にクマによる被害を受けたのは70人で、秋田県内14病院を受診しており、重症者(多発外傷、全身麻酔を要した外傷、指や手足の切断)は23人であった。被害者のうち、防御姿勢をとることができたのは7人(全体の10%)で、この7人全員には重症者はいなかった。また受傷場所については「里地」や「居住地」といった他県でも増加しているように人の生活圏内が最多で、全体の60%を占めていたそうである。



防御姿勢プレスリリースより

る。今回の研究では、詳細な調査によって「クマに遭遇した際にうつ伏せによる防御姿勢をとる」ことで、重症化を防いでいる可能性があることを、実際のデータに基づいて示した初めての報告であり、人とクマの不意の接触が避けられない状況下で、「いざという時の対応」を知っておくことが重症化を防ぐ、そして命を守るために重要であることを示している。



志賀高原で遭遇した子熊

私の生活圏ではないが、志賀高原の道の脇4戸位の近距離の所で、本年6月5

日の18時半頃に子熊2頭を連れた母熊たちが逃げていくのに出会った時の動画の子熊のスクリーン映像を本紙に掲載しておく。母親は子熊が避難して登っている木の少し手前の左側の笹藪の中で、子熊の緊急時に直ぐ対応できるよう隠れているのを目撃で確認した。

「五感を研ぎ澄ました野生のクマ」は、「家畜化した五感の衰えたあなた」のすぐ近くにいたことを忘れてないで下さい。今回の研究報告の詳細を知りたい方は、臨床整形外科 60巻第7号 7月発刊 医学書院を参考にされた